

慶藏院寺報

公孫樹

2023年11月発行

第142号

浄土宗慶藏院

伊勢市小俣町元町1211

☎0596(22)3726



華道「山村御流」講師 小森清真先生 画 山寄淑子

信仰とは、つながる「いのち・魂」の永遠を確信する

先日、「松家香代子作品集」と仏像を描いた原画、五作品を寄贈していただきました。さっそく本堂に展示させていただき皆様にご紹介させて頂いております。

「妻が残した数十点の作品は、一枚一枚の作品の中に妻の魂が生きているように感じます。…冊子にまとめることによって最愛なる妻香代子の魂を感じていただければ幸いに存じます」と作品集「はじめ」に書かれています。

周りを囲むように展示してみた仏像画を鑑賞させていただいていると、温もりと潤いが、どの仏像からも伝わってくるのを感じます。作品は、それぞれに独立しているものなのですが、相互に響きあっている、本堂の空気を清浄化しているかのように呼吸されている…と思えてくるのです。

ちょうど6月から始まった「山村御流のいけばな教室」。境内から探してきた花材や朝の勤行の際にとけていただいた花材を活けてみえています。我流になってしまっていることを怖れず、供華として、仏像画の一体、一体にお供えさせていただきました。

「山村御流」の「いけばな」は、生ける側の考えで、こうすれば綺麗になるのではないかと生ける側に主体を置くのではなく、「花は野にあるように生けるべし」とその花のいのちが輝きでてくるように、花にききながら生ける流派だと教えてもらいました。仏画への供華にふさわしい「いけばな」ではないかと感じています。

29日の第十五回大念仏に参加された皆さんに仏画と供華とを観ていただくことができました。さらに多くの方々にも出会っていただきたいものと願っています。

母親も野の花が好きでした。山野草を植えたり、どくだみの花を一輪挿しにしたり…。母の葬儀の際にテントのじやまになると払われた山桜の枝を、息子は、あちらこちらに生けて回っていました。「いけばな」をおして「いのち・魂」のつながりを感じています。

11月の行事予定



1日(水)	写経会 男性詠唱隊	午前10時～ 午後7時～
6日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後1時半～ 参加費2000円 と 花代 ※今月は第一月曜日
8日(水)	落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後7時～ 一会館にて 無料 おひねり歓迎
15日(水)	健康教室 歩き方教室 講師 馬場久美子先生	午後1時～3時 参加費500円
11日・25日(土)	絵画サロン 講師 山寄淑子先生	午後7時～8時半 一会館にて 参加費1回500円
22日(水)	地蔵講・地蔵堂開帳	午後1時半～
25日(土)	戦没者慰霊平和の鐘	朝の勤行にて 鐘撞は午前8時頃～
9日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 一会館にて 参加費1回1000円
10・24日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生 田島宗紀先生	午後7時～子供茶道教室 7時半～大人茶道教室 大人500円 一会館にて

慶蔵院 知識 part2

⑥



私は今までテレビでしか能を観たことがありませんでしたしあまり関心もありませんでしたが、令和四年十一月二日に、大正大学公開講座で観世流能楽師「橋本忠樹氏、立花香寿子嬢」の「羽衣」を見て（本物を見たのは生涯初めて）何か感ずるものがありました。時間の都合で、演目はクライマックスのみ、囃子はなく舞と謡（うたい）のみでしたが、舞の優雅さと、マイクなしで通る橋本忠樹氏の謡の声、衣装や面（おもて）の美しさに感動しました。演目終演後、橋本さんが面と衣装について説明してくださいました。衣装を付けてみたいと希望した女性が衣装を着せてもらい、最後に橋本忠樹さんが「これでよろしいですか」と確認されました。なぜか？ 演目中に衣装が乱れたりしたら、責任を取って昔なら詰め腹をきらされることになる。だから必ず「これでよろしいですか」と確認するのは、その時の責任回避のためだったという…。貴重な体験でした。能とは命をかけて行うものだそうです。

面には演目によってたくさんの種類があり、面をかぶるとはいわずに「かける」と言い慣わしているそうですが、すべてを賭けるという意味に通じるところだそうですが、能は現代人が忘れてしまったものに触られる機会となると感じました。和尚と橋本さんの縁ができ、親しくしていただいたおかげで、京都観世会館での能楽鑑賞につながっていただきました。令和四年十二月と、令和五年七月に同行させてもらいましたが、次の機会に報告したいと考えております

(文 麻畑公生)

成道会は三人会!!
十二月十日(日)

昨年好評だった説教師さんに今年もお願いしました。「三人会」として、それぞれ力を磨いて、成道会に臨もうと思います。



午後一時 開白法要 詠唱
午後一時半 当山住職法話(20分)
二時 佐藤順晋上人

(安楽亭東風 落語)

ここで特別ゲストが出演することになっています。お楽しみ。

休憩 ぜんざいを食べていただきます!!

三時 山添真寛上人

(浄土宗の劇団ひと)

紙芝居・人形劇を使って創作法話に取り組んでいらっしやいます。



住職の健康回復への道のり
(21)

お盆を過ぎたころから下がっていた血圧が、また高い目になってきました。利尿剤の量を加減しながら調整してもらって来たのですが、上が一七〇をこえるときがちょくちょくできてきていることもあって、このままでは心臓に負担がかかってくるから…と血圧降下剤の復活となつてしまいました。ということで現在薬は、血液サラサラにするリクシアナ三〇ミリ、利尿剤プロセミド十ミリ、それに加えて復活した降下剤アムロジピン五ミリを服用しています。若先生は一階で西洋医学のクリニックをご夫婦で開業されており、心臓の検診、血液検査、心臓ホルター検査、睡眠時無呼吸検査、エコー検査など丁寧にご診察いただいています。奥様は皮膚科の専門で、爪水虫を見てもらって貰います。二

おしらせとおねがい



※後期の護持会費納入をお願いします。

※十月二十九日の念仏行脚にて

八千八百円のおひねりを

きました!!



落語会「いちご亭」

無料です

第2水曜8日 午後7時 慶蔵院



秋夜長大吟醸と本を読む

奥田 悦生

(「知恩」十月号「柳壇」に掲載)

仲秋の月と一緒に念仏会

奥田 悦生

(「知恩」十一月号「柳壇」に掲載)

松禅院の念仏会が「知恩」十一月号「読者の

声」に

投稿・掲載されました!!

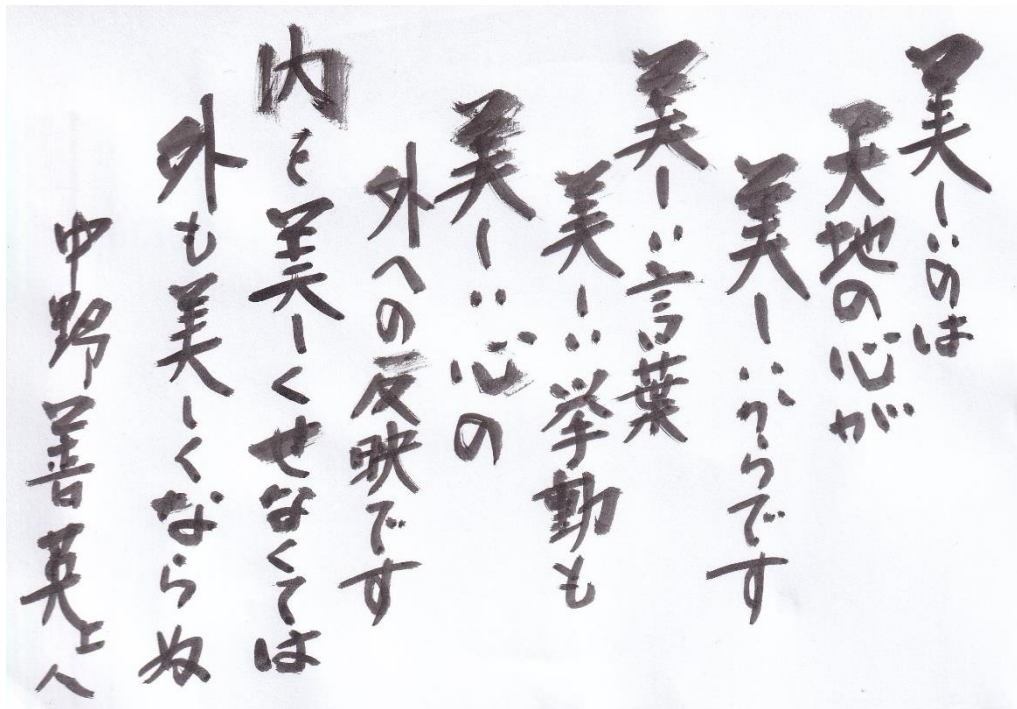
比叡山飯室谷の松禅院での中秋大念仏会に当地の慶蔵院から住職をはじめ8名が2泊3日の行程で参加してきました。開白礼拝儀に始まり、大念仏、法話、大念仏。夕食を挟み、月下野外念仏で中秋の名月を拝み、開枕。翌朝は山上湖水に日の出に向けて大念仏。散策のあと朝食…、写経、写経回向を済ませて帰路に就きました。久しぶりに念

麻畑公生の「浄土宗新聞」見どころ・読みど



P.8 「古典から見る“この世”“あの世”の情景」

科学を装ったカルトに警戒が必要だと謳っています。陰謀論もそうですが、なかなか本当か嘘かを見抜くのは難しいものです。不安を煽っているものは怪しいと思って良いでしょう。事に当たってはいろいろな角度から調べて見るのが良いでしょう。一番良い方法は、真の心を持って念仏をし続けることです。そうすれば仏さまは真理を授けてくださいます。本当の事を教えてくれる人に会わせてくれたり、良い本に出会わせてくれたり。



2011年4月、辻説法を始めて間もないころだった。中野善英上人の「6つの願い」について語ったところ、聞いてくれていた中尾さんから「おっさん、この願いを朝の勤行で唱えましょう」との提案をもらった。こうして唱えることになった慶蔵院流「六つの願い」は勤行後、毎朝唱えられることになった。

「六つの願い一つ、今日より必ず念仏を先とします」

「一つ、今日より必ず仏心を汚しません」

「一つ、今日より必ず腹を立てません」

「一つ、今日より必ず愚痴を言いません」

「一つ、今日より必ず精進努力をします」

「一つ、今日より必ずよき施しをします」

こうして唱え続けると、この一つ一つの願いが、勤行に参加する人の心をゆっくりと温め、育ててきてくれたように感じる。

最近、一人の人が「助けてください」と勤行に参加するようになった。一緒に念仏を称えた。くじけそうになると皆で励ました、悩みを聞き、もつれてしまっている心の糸を、みんなで意見を出し合って、考え、解きほぐしていった。「それはおかしい」と声を荒げたこともあった。皆から批判を受けて孤立しかけき、それでも「私を見捨てないでください」と勤行に出てきた。誰かが寄り添い、支えた。続いてきた薬に頼る習慣も断ち切れた。規則正しい生活が身体と心とを整えていくてくれた。コンビニ弁当生活も止めた。自分で計画的に食材を購入し、料理ができる昔の自分を取り戻していった。勤行メンバーの一人が宿を提供し、生活を共にしてくれている。まず犬がなついてくれた。山田洋二監督の学校シリーズと一緒に観た。今「大地の子」を観ている。一日六時間で週五日の仕事にもつけた。就職が決まった日、勤行メンバーで再出発を祝った。みんなで嬉しい時間を共有することができた。